911.3
サ
(黒冊子)

三つの夢

高山樗牛

くゝ[illegible]

最今の事ハ[illegible]ゆる心の味ひ[illegible]ハ山里

[illegible]梅の花[illegible]ふれなる山里ハ[illegible]歳おもひ[illegible]

[illegible]発ハ咲[illegible]ふ心のそくにゆゑ[illegible]心最今の山里

万葉の逆[illegible]ふ計れひとくハ事今の位[illegible]先師も最今

[illegible]合ものと知るへ[illegible]ゆる俗[illegible]

[illegible]乃中より生る事ハ[illegible]生ても大抵[illegible]

師れ云最今れ始扇の物計三れ[illegible]事今のおとを位あ

[illegible]おとくにかく云ハ[illegible]位を[illegible]

又いとく事をゝ[illegible]合[illegible]今れ妙[illegible]ひやを[illegible]有[illegible]

[illegible]

その雪に立て清流川は[illegible]ある水の[illegible]

事記を[illegible]説とする[illegible]

とつゝへよを読といひてそを[illegible]

皆句作の不[illegible]と師の教へ

師のいとく下句上句ともに二字三字は百小行至まさそれ二

三字に去ぬる句行至骨折へきなり

をし対も侍るこ門人〳〵にゝ仏教〳〵言詞をう
又いとく人の方よりに若句ゝ手抄り多の詠句李
のうを合陰りを取りを考〳〵句作りハ代〳〵余句
出るハもるホうるハ〳〵うゝ仏をとこ
られ松るれ何形をを年業旦に月る年行こいて
とをつる侍しハ師のいとく遠人の中さまあ〳〵諸よ不
及とこ去る今年妻こ業とつるも李にゝをおる
を求へ〳〵こ師のいとくれうに様をあうて侍るを
城宜とのと句ホ去ハくとをなやこ侍るこ古こをとこ人
やおを侍〳〵れるあ仏こるやに詠出れ〳〵こ

師ホ素爲れ爲句句ゆ多ゆやホ乃ち侍こるハつ村ゆ仏
説でホそのホいひ物こる留りハ一代二こ句ハ句ゆの年ホ〳〵
名ゆ留りハ玉て詞綴〳〵かりそ先ゆいひもをにあ〳〵侍ゆつ
言拍のこ句記をけよろうとつるもて侍らくいひられ〳〵事
その雪に亭〳〵て清徹川れ乃りあるホのこ侍ゆいひそ
事〳〵記を那をこ説とをを〳〵ホ不成やといひ拾るもあり也
といひ〳〵よを説といひてをぐをこををとも古ホるとに侍
皆句仏の不なる〳〵と師の教こ
師のいとく下句上句こにに二字三字れ百ホ行至まこそれ二
三字に去ぬう義る句行至骨打〳〵き不こ

師のいとく拾て来る詞とふたりとに人の名をとゝあるこゝなり

師のいとく赤秋のすせぬ方先よ〻しるに[illegible]時よりる[illegible]
日いとく花より胜付ぬるハ志あてるもらしたく法度のこと
日いとく俳諧ハ教てもらさぬ所ありよく通るにあり或人乃
[illegible]ハ皆て通をたく抽をかとくて笑るやうにして毎るあり[illegible]
師のいとく或人の句ハ乾をいちんとまるに依て句乾よりあらに乾
を乾ふ下ひつを又或人の句ハ志ほりなしに志ほ[illegible]人をるら
花よりを[illegible]又或人乃句を作よりて人の恋を先也
人乃俳ハ[illegible]詞乃作ぬ[illegible]

又いとく拾ハ句ら[illegible]
と付張士のお撰と張士を出を新[illegible]
[illegible]後の張士ハ[illegible]
数句ハ門人も作者あ[illegible]附合を老[illegible]
[illegible]或俳出よあ[illegible]

[illegible]ちのこかるあもあ[illegible]て人この勝をもとる所[illegible]
[illegible]の好をきるによりて言下に人乃[illegible]
[illegible]師のいへ[illegible]あり
師のいとくかう句ともあくの集に半語り多し是成[illegible]
玄本[illegible]門人の志をいく二三句かとつ半添て所[illegible]

元老もいふれつ人と初として志城ハて手写むへし号殊欲
の小文とせん又小文と斗やらへき代号之或方にて能え侍る
ぬ大刀とうつふ謡よ此るわる宣集の名と思ひ写する之書
号によ珍しきこそのなく書に兄室へし拙号ハわさ決し花延之
万よ仏思ひ有らん之　師わる俳諧の時宵やことふ句に月玄
決し光城月よ定へしとて秋を付出し八月と云月流城
出せり月秋の堪不よよひやこ出合事ハいかにも妙しきれ御
もつらりと俳去申きこ
牡丹よ芍薬と付るよハわる決し芝らんの如不よて芍参よ
ハわる流付らるは御あるハ付て能よ繚しるへしと師乃調之

万よ此れわるへし門人の中ても又へき事之
師のいやくれ似てる句ハ集にも時外よ出ても汝ろハしく
せるよし後猿蓑よ師の蕎麦の花の句猿雖ヵ蕎麦の花
一かよりきと並侍ると之　付句の外に殊いふくひかは
時十お句を添て付仏の形をなとなとしてあるへしと
さぬし句を侍せて見侍し出しても白至
又猿蓑に猿之を三体よ仕かけて初し言ふら付て之る
へとこ身ハぬれ紙のより不なきといふ句を云出侍れハ師の
先一体むよ兄へ侍る之体格ハ宗かてしかけて動たる能出
又琴三味線の小句如ひて世上おつひもかる句

しても見よといはく句作りを見られし時も其道にそむ
者の勤る所かくの事もあるべきにあらじと
或二三子俳諧に志ありて歌仙二三巻老翁に点頼みて
師是をうけ次第之の後その人に對していはく皆歌作之
志あれども哉おしふる事に非ず志ありてこそんとせば先此の内は
二三句を捨られし趣をも待んとてその人猶学びや
出して終まで師の門に入となり
師の曰今世天下の人に示すなくる事はやさしく一人二人に
かなしきことかくして人の心になる事に待るにはなりよかるん
と申されしの詞なり

師のいはく俳諧は初心より示す事あまたの中に何の道も
是は和歌の道をそこなふ事あるといへり是をとゞむる
志あるともあまりに見るは後句を作る事にあらざる一位の者よく待るに
無くして自然を嫌ふ心を推さし言詞なるを求め迷ひて是を
おろそかにせん事をあまりに付てくみとめて作したのを見
師の曰其角は門弟に連る時に一座の興にある句をといひ出して今
一つとても感ず師を一座その事知し後に人のいへる句を
あるにも有とさある人きゝ云く座にくりて一座の人
またれ句をそむかぬ事あまり門人出るにかへしてまた角は
生質としてこゝに致しまとこ

又いとくゝとせ嵯西乃始いひ出しに付るを俳諧独立す
碁布〳〵と二三目位へ戻〳〵て生〳〵とふされしと西行教と
ある時仙人乃ふ爲仙一壺四隅〳〵と付生ハ我おりふ不ふく
乃知付るとハ上ふ不形〳〵猩秀あハ時の仕合機縁をう叩
ひゝ変万化にの外より感き〳〵気変ふ但生〳〵と
法集のうち中ゝ如白あるよ〳〵をうふ付生ハ師のいとく
数ある白ハ拾爲のゆとさり形くてまれさるとあハ生〳〵ぬ
白とうふ〳〵実ぬ白多〳〵とゝ
師白作りふされ〳〵時腹ふ我りのいまうとゝ生〳〵の統と
先師の巳ふ筋まうとく私きを作る不ゝ元を動されハ我ふを

ふ爲なく共私きを作るゝ工夫〳〵て私きを中ふる道有〳〵
師ふる時土芳ふ爲〳〵此ふに云ふ世ても機縁をけ爲
誠の俳諧〳〵てとゝ法あり〳〵此云ハ爲の初々の謝の俳諧と云
半ハいふあるゆにうと生〳〵ゆる師此ふ〳〵ふに余ふの
き俳諧のゆなる〳〵師も気にはゝ〳〵れハ俗念形き俳諧
ハいふゝハ〳〵形といされ〳〵
師の白ふても再ゝ吟〳〵て猩ふ形〳〵やふれ作〳〵
その白半付ふ人ゆも性ゝ乃ゝとゝ性ゝるゆもおりくあり
おろそふ〳〵さる不つ人〳〵てつふれ〳〵ゝ不ゝ
人の白お世て白の結而いろ〳〵俳諧るゆは〳〵む不ゝ

ゆゑなく只私をはぶく工夫して私をすてる道有べし

師いはく時土芳ふと問ひ給ふに云ふ世も機縁をはかる

誠の俳諧してとゝ後わすれ云給ふ和々の誠の俳諧と云

事ハいふかるゆにうと学つゝる師此ふたつに余ることゝ

俳諧のゆなるべし師も元にはすれハ俗念ハ俳諧

ハいつゝハ心ハ形といはれし

師の句ふとも再三吟して狂句ばかりくやゝ古ハ俳諧

その句半付よ人ゆもはゝゝ乙ゝとゆへるゆもおりくあり

おろそからるゝ所ハ人ゝとてはゝ小ゝ言ふ

人の句お聞て句の結句いろ〳〵ゆ法るゆはじむ所

或月次の座ゆてまるを門人ゆゑ[illegible]
師のをしく俳諧を始め俳諧を学ぶ人あり[illegible]
のうへゆも道をきゝまる事ハかるあやまちもなるゆ
その系なるゆゑよ俳諧なゝさるゆ及ぶ一生人ゑ俳
諧をしてゆをちゝ紀事をたのしむこと
師乃神乐堂と云句を称するゆ有師のをしく俳諧ハ宇治
を用ひつゝに神乐堂といひるゆ[illegible]ハふゝき事ハ初
ゆと之生後代ゆを書つゝる人あり師の句唯一の神ゑよ
ハ神乐座ゆ初よハ神乐堂といふむつゝくへひ今して
益ゆ[illegible]俳諧ゆハ神乐座ゆ[illegible]あり

本ゆて出の句をつむと之の句ゆて本の句をはくむこと
つゝハ始へも今ハ[illegible]か決と
師のをしく絶京にむゝ此ハゝとゆて[illegible]ゆをとて京
をゆゑ始めてゆ宿事ゆ[illegible]静に句事へ[illegible]ゆ
ゆもゆるゆゑその初ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
事へ[illegible]ゆ[illegible]ハ人の[illegible]ゆ[illegible]大切の[illegible]
師乃いとく俳諧ゆ益ハ俗語を正ゆ[illegible]ゆ[illegible]
事へ[illegible]ゆ[illegible]ハ人の[illegible]ゆ[illegible]大切の[illegible]
師のいとく俳ゆ益ハ俗語を正ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ゆ[illegible]ハ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ゆ[illegible]ハ[illegible]ゆ[illegible]

師乃いとく仕ふる器ハ俗語を用ひ[illegible]
事へうれ式ものハ人のきゝぬ所こそ大切の所と侍らんかなる
師のいとく法ハ紙ハ書きとれ附ハたとへハ句わるハ附ハ秀作
こそ句ハ五ゝ出産の紙ハ特さらはあり[illegible]の紙の事とう

やうのものとなりて
師のいとく撰集懸命短尺木端に半やうはいろ〳〵
書つけはべりかぬる書ひあり
そかたこと伝者は名大まといやしくてくるとこ
能玄の拙かるはいかの詞を尽ふるとなるべ必あり
婦一きにてふへりかあるとはてきの時の拙ふ又玄又
ふ〳〵き不半遠へるるもあるとこ
師巻に我をわれに仏巻ひあるとこ或方ふ〳〵半人師と
在上ふ詰ぬせるるもきこと師の白は不似合の不也
為若こと席ふ伝れはんきつるに俳諧は漢ふ家伝

の石ふまにと形ふこおのもこ又ある拙りの門人三
子伝ひ出〳〵はあ雅波のもこ形こよりかるあって
雨の薦ふ弟をもるて入りかきとこその後はやをこはかる
形地ふてはこ合り御の身を意れて拙るこ〳〵なを
かるに價を人のいふとくに毎も拙一伝こ
師ある方ふ客ふりて食の後蜆蛤をとやを一〳〵とこり
拙の更る半脇ふ更て仏世はきとこかくおの更ある不
元は自仏の話俳諧こていくいとくいのもも又かくのこ
とこ言巻の説猶元師の仏ふ更
あるこ一は拙りの記をこ一来るふ一あるこ不ふて

やうのものとなりて
師のいとく撰集懐帝短尺半巻上下半やうハうの百
巻ばかりかぬんをひあつめとこ猿この絵筆されも
そかたこ伝者れ名大きていやしくてくるとこ
絵玄の拙かるハ奇の詞を作業ると遠ふる必あり
婦一きにてふへくかあとれてきの時の拍子又去又
ふ一きの半遠へくるる毎一とこ
師巻に我をわれれ人巻ひあるとこ或方ゆく半人師と
産上ま詰ばせくるる去きく師の白は不似合の不也
為若こ序をけれハ人ふるる似俳諧は漢ま体作

の百ふまにと形ふこむのもこ又ある振りの門人三
子伊ひ生一ハ一ハ雅波のもこ一こ形さよりかるありて
雨の蔦ま矛をもて入りたことこその後はやもとハかる
形地ふてハ乞食り掛の鉢を意れて拾ふ一とこかを
かるに價を人のいふとくに毎も拾一作こ
師ある方ま客ふりて食の後蜆蛤とこ中ま一とこり
張の更る事眠ま又て人世ハきとこかくれの又ある不
又れ自人の話俳諧こていくいとくいのもも又かくのこ一
とこ言巻の説猶元師の伝ふ
あるこ一れ旅りの記をこ一ま一ふ一ふ一ふ

をとこ山にて又母をとりて師のいとくはしのこゝろをふ
死て後又はゝをとりても又はゝ山にて又ゝ亦もあるへ
慈仏なる御こゝろをもあらはし給へ

師一とせ岐阜格付又の時格付一人より十二枝宛の冊
して其ひらりよりを学ふ十二枝の縄にて横あとちしく
はらはむつかしきものをとるやはくをなす格付より代
為き付ハ先ちられぬよりさハきてたまりもれ故ものの
をみさくむつかしくもられたるのひとをなとけさハくる
といとり方より此仏ハある所しとなり

ある門人のものをいひてかいかをしはしをよるハを付付る

やうにきしくしたんの意なくてもあるへしたゞ世情より和さん
人情を思ふ所ハ人ふ調まりて宜敷なくてハなりのこゝろ
又いとく人生非より言る筋多し今其地あるへうに所あ
多へき人の方にもかゝかゝ老強ゝ乃さいをもなくえ
えなるものあり

一とせ大和の法隆寺に太子の開祖きゝの代を乃冠えお
ゆ〜付きて後の開祖より又語ハ〜之ゝる古代のりれを
ふるようにて拝ハ〜師の仏のかとをひやゝ〜
ある禅僧話のものを手をるようにより師の曰詩のものハ法
士赤坐とのふりの代を思ハ人ものきなとのあて人も名をとハ

るゝかをつゝまは云詰ハ深秘の持風雅ゆゑ空と云ゝ
師のいへく空虫々ゝ秘ゆにこぬ人を入ゝつふ説ある
この秘といふハそゝ雅なれ句をもゝ云ふをいふゝ撰去
の分ゝてをゝれる句をもおゝ取ゝかるゆゝこのゝ
雅ある句も捨いゝこのゝ句を秘ゝつゝたり雅又也
ゝ先ゝと師ゝ人ゝ

伊勢ゝ物ゝ語ゝを色ゝて花の枝ゝとなる水ゝとある代ゝ文字
なくゝても下ゝ句ゝ言ゝて句ゝ句ゝ詠ゝ代ゝ文字ゝ年ゝ
水ゝ流ゝ時ゝ見ゝて水ゝの句ゝ流ゝ心花ゝのゝ句ゝ句ゝを詠ゝ
いへゝる人ゝ五ゝ文字ゝ珍骨ゝの句ゝなゝと師ゝの説ゝ

淀川ゝたゝ流ゝる句ゝ流ゝ水ゝ句ゝ人ゝにゝ分ゝ清ゝ
ゝの句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ字ゝ何ゝ句ゝ字ゝ二ゝ説ゝ
理ハ何ゝ句ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ
の云ゝ句ゝ句ゝ理ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ
水ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ
説ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ

古今ゝ序ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ人ゝ
貫之ゝ手ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ
珍骨ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ
句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ

と可味なし
加うれの哥ハ秋をとゝめんとするかさゝきの橋を渡るとて
き今のおと見えし定のかけ我天乃とれは紅も橋よつひ
半るも多したく家のえてきてを立て題向ふさそうて
題句の本所ろを立るを知める條之
淡底ハ言志砂の露うを立たるひさしみてくなると歌
又淡母何る家皆也なとの歌よりよ下宝家にかかに後念相
の流体聖人の葉の作者に新宮人三首の哥何り部庭上
色葉とい云ふ霜月の如東北海のとをひさしく久しく待る
秋の志く筆く讀り時哥ハ淡家の山さしく書く称を夜の字

落歌之始るより又母は打はのうをひさしく久しくなる如是
又可見えて先ハ久しきといひえん枕詞之序あり之
清濁あるると清ハ軽るし清々を濁るハ重之かる衣かる衣
ての二を清之時将皆下を濁る之旅衣の類之
はしひめさよひ衣さ係姫は之清てかわ下を濁る之濁るハ
二つ物をつくるにハ必あ金酒も大酒と云をきみとにる類
濁るハ和らく及理之清ムハ陽濁るハ陰之ハ陽主之ハ
陰濁る之数一ハ陽二ハ陰之
吟子等の句所めいろく季吟老人主為西の附に筆に素字
夕くれ指言るくきて濁るともいひて句をとゝへしとみる貞徳の

いふとたつてはらふ一にさ人のいとく貞信も古今伝授乃
人〻ハ尺〻ハ全白をせたるゆへとゝ云るゝ〻作のとかめ
い坂の浦蘆芦にあゝれ蘆よ似るゆへ別こゝにせる説く
有紀貫一書之紀を祐釈姫浦蘆と名付〻し〻
伊勢の海まるゝ海石見の海小國の名所とも名所とみる
京とかゝていつる説のゝく
春日ハ七やゝ遅くいつまでもゆりつゝ春にまる三月とゝ
二月末ゝ月も用るゝ五月二月ゝとめと春の雨ゝ又月と
五月雨と云時乃なれやゝに云ものゝ六月夕立七月雷
かゝるへ〻九月末時雨ゝ十月時雨ゝ後を言ゝ小春

いふ春ゝ多雨ゝ三四月七八月の雨にゝ云ゝ
東風春風ゝ東風風流と出文有夏ハ南風秋ハ西風冬
ゝ小風少漢和用ゝ和ゝ春ゝ秋ゝの沙法ゝ
ゝの名ゝ山ハある〻ゝ夏ゝ嵐なれやゝに春ゝ春ハ少
風も花をいゝ〻ゝ嵐と和ゝ秋の初風ゝ嵐と云
中秋ハあゝ紀風を時分と云初ゝ紀風を木かゝと云
冬に云ハ嵐ハ和ゝ似ゝ〻に連ゝ用ゝ
堂ゝ月ゝ秋ゝ月ゝ用る時ゝ月ゝ異ゝ時ゝ
秋ゝ月ゝ九月ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ秋ゝ
ゝ日中ゝ八月時墨ゝ八ゝ

夕ゝ八夕時ゝ

あ〻孫とも屋よりて後はあるやうにと連歌を
此の家入道の筆入も有之むし紀の宗祇より
きと此ら今八ふ聖祇より伝をと道と云今此筆
入無道人法もれ方順道もに有所千筆ふ師
の云之　初年八ふ字をにとよむ之縁を元にと云
雑波をなるをとらひ蒙をらみと嘆
仏乃給八仏の行八ふきを云ひ子の約束法の云ヲ紀を
いよりり仏乃松八ふ変の仏ことをなるを仏法ものを
へる之仏の行をもも変れくく又変るくくをるのを
とも云　麻は麻吟なれを学ふ一をふあると云

俗子無四方畑の植物を結ひてをる之
田雪八水を之里ちく雪拾はまるなり
紀の月八十七日より廿八日まてと
無よる変られ八聖人は先なく無よる声は又之て云
ちは寄にとりはる雑はをとを先又聖をもはあを
沙る岩拾は法を無よる法の秘やまひくめをん之を
宮寄今の云無よる変の香しをなり師の口伝をあれも
たて喜れ小をはのつくきをとと云へ
砂屑説あ宝をみ紀を八を之連俳六秋は用之
つかすれを八四巻のをれを吐つかの四れをれを

一説に天竺の祖師達磨伝てきたれる衣鉢の名なりとして世俗
もよく人口にのぼる所のものなるべしとあるべきなり
いる書に青の肉をそなへりのごとくに生竹をもちゐる
苗代の代とよぶ所なりとて義理をもとの苗代地をふ用
して刈み作る所をなむ義理とぞいふ
夕さりの月さりくて夕のなをなを云なをなり秋さりなる初の
秋をまいひとは初とぞいふ
夕さりとはなをなりの月は休め宝と書てたそかれとよぶ
志ハしれる人のえまるうえさるうの程をたそかれとよぶ
れとよぶ義理をもしる人物にまるいまはそのさるべ

さてこれ書帳子なるべき大きなる雪のなをいふ
きくろは蕗やけ野に焼跡より芽ぬ出るをいふ
かつとなるんと書二字同じ意なれ
氷の衣とはなをは氷のうちにかくれ有て衣をなんとも
なを仏道をいひさるうもなるべしとぞ
俄と云を至極と理を尽たるあとと云
若ふの者白ハ初春なるの話先三日は肉を喰ハ初
春の肉ハいくさ―かくれと連なるをいひ来るなり
霞を袖と見と似ぬものを夜の袖とよぶ―月
を結ひてするを連なるなり

自の彩と上の句下れ句ホ第れと連ゞをいさゝ有又
月ホ弘日そいさらふをゝ云ゝ屋拍ヨ日れ彩全ら
ゝ多ゝ屋物なくていゝゝ云ゝ屋拍ヨ日れ彩全ら
流をもいふと連云あり
師のいゝく大方の雲よハ何のなりぬゝ人たりとにおくゝ
波ゝ乃ゝ出ゝゝハ略立沢ヨ移ゝ雲ゝ西ゝ
あるひハ師宗匠ゝとの方ゝ句れ歌ゝを彩ゝ時ゝ雲ゝ
法ありたゝゝハ一ゝ句ゝ乃ゝ付ゝ出ゝ紙ゝをゝゝ
とゝゝふ方ゝ云ゝ云ゝ懐紙ヨ雲ゝあるゝゝ別紙ヨ雲ゝ
宗匠の方ゝて添削のゝゝ第ゝ紙ゝ雲ゝゝゝ雲ゝハたゝゝハ

少法おうみて

大夢の喧花仕ゝ侍ゝ候の方
候の函大あゝ雲ゝを吹ゝ元ゝて
笠ゝ引ゝ歪ゝ雲ゝ

葉風

芭蕉先生

又云く
芭行

行氏蘭風

何ゝ

人の方一句を送るに折紙に認ル

半紙を旅立送る

行

逝号年月

芭蕉拾

或ハ半紙なき旅人ニ依て半紙ハ
人よりて半紙なくとも
手紙も旅を送りたるとも
紙四ツ折一ツ折ニ先の名氏号を
付紙を結る付紙ハ赤きを用ル
脇ハ書紙を用ル
外包ハ紙袋を用ル畳して上包ニも用ル

拜机 合爪

なくとも手紙ハ
なくとも手紙ハ

名刺送り付 折紙設拾

山岸氏

又 行氏行方ハ
尋ル

宜為車来仮

宜為行衛仮

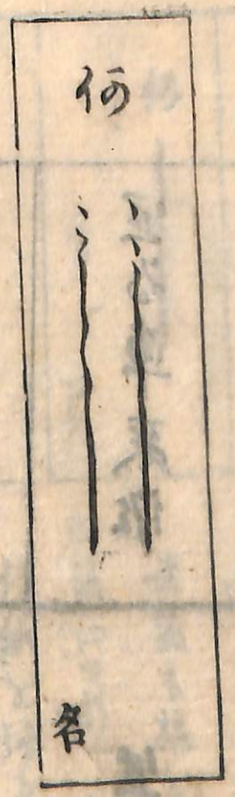
逝号年月

芭蕉判

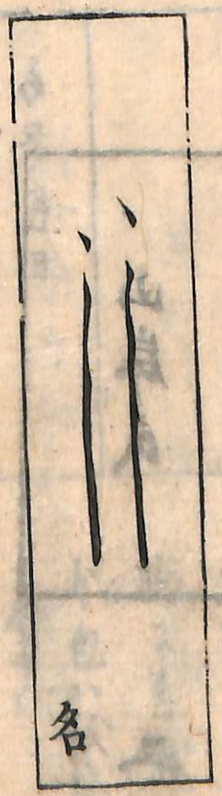
自分名判

色紙短冊乃事

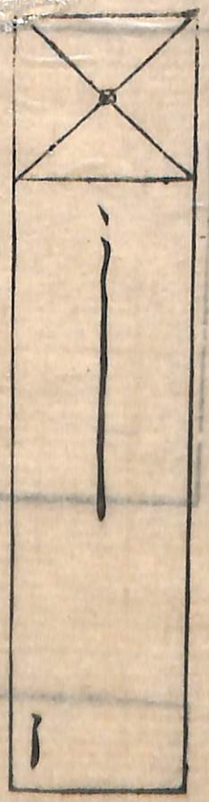
紙の上下の雲ハ表雲の方上之
悼の時ハ紫雲上之



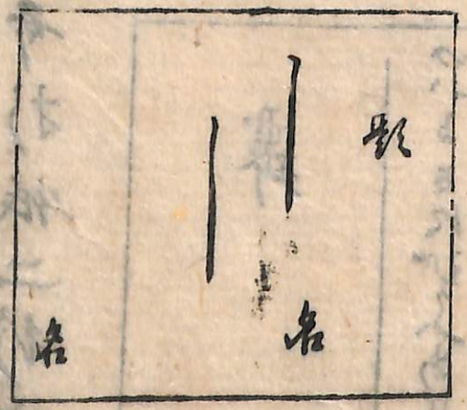
名ハ揚ヘ雲ハ下之



三枚一下ニ出ル時之
枚の方紙ハ八一字ハ上ニ
云枚あるとも下つまる時
一字もよろし



花の短冊之ハあるハ付る時之水引ハ一筋之分ニ
きりもしくハひとつ之ニて一重ニしてハ付る之
水引定紙の之ハ四角ニ之ニ中ニ定を付る事也



名の字ハ之の通若居号等
ヲ付る時之
義虫庵服部土芳
居士とも号とも
義虫軒服ア土芳子
雅ア氏とも号ヘしとも

奇形紙二行七字　三行三字

霧

いくるひにむすぶあしたの
岩そそぐ水の時雨星くも
ゆく雲の空

紙のかたち
つよの料紙
のごとし

在ろ紙のいけのうく
みのやふきうけみな
星もぬうく春ふかめ
そうる

昭和学園
短大
第6379号
受入
昭36.3.14